

事務事業名	バイオマス資源利用促進事業	■実施計画事業	所属部局	総合政策部	単位番号	2093
			所属課室	地球温暖化対策室	課長名	依田昭造
			所属担当	自然エネルギー推進担当	担当者名	保坂正彦
基本政策	基本 快適で心のかよいあう都市づくり		予算科目	会計	名称	款
政策	計 19 自然環境の保全と活用			01	一般	0 14 0 1 0 15 0 9 0 1 4
施策	画 32 自然と共生する地域づくり		事業区分	■	国の制度による義務的事業	■
事業期間	■ 単年度のみ 期間限定複数年度 (21 ~ 24 年度)			■	施設等維持管理事業	
事業の内容	事業の内容...期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			■	県の制度による義務的事業	■
事業の概要	事業の概要...期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 事業の剪定枝等の木質バイオマス資源を、熱エネルギーとして実際に利用することで温暖化対策として取組むとともに、基幹産業である農業を中心とした循環システム構築の可能性を検証するための事業。検証の段階では、果樹の枝を集めれるか、集めた枝を木質ペレットに利用できるか、燃焼効率実験など、それぞれの効果を検証・見極める。業務は、委託業務、報告の確認、商品の販売を行っている。事業は24年度までの予定となっている。H22年度は、バイオマスの利用により削減したCO2の量を、排出権化(クレジット化)し、環境省基準の認証マークを受けた「カーボン・オフセットトマト」として首都圏を中心にテスト販売を行った。この事業において市場での優位性が示されれば、「さくらんぼ」など他のハリス作物への普及が期待でき、地球温暖化対策とともに、環境付加価値のついた南アルプス市のブランド農作物として確立を目指すなど、地域農業の発展に結びつくのではないかとの期待がされる。			■	補助金交付事業	
				■	市の制度による義務的事業	■
				■	義務化されている協議会等の負担金	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	剪定枝の収集方法についての調査研究 ペレットによる加温実験、農産物の付加価値化の調査、実証
23年度活動予定	前年と同様
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	
ハウストマトの栽培農家	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)	
木質バイオマスでも重油ボイラーと同じ生産物が出来ることを知り、使用することのメリットが実感できる。	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
バイオマス資源の利用によりCO2排出量が減り温暖化対策が推進される。	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア	協議打ち合せ回数
イ	
ウ	
対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア	木質ペレットの使用量
イ	t
ウ	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア	木質ペレットを燃料としたことによる二酸化炭素削減量
イ	t
ウ	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア	バイオマス資源の利用により削減されたCO2排出量
イ	t/年

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間トータル	事業費	国庫支出金	千円	14,584	1,313				
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円		6,805	6,777	3,907	3,500	2,000
		事業費計 (A)	千円	14,584	8,118	6,777	3,907	3,500	2,000
人件費	正規職員従事人数	人		2	2	2	2	2	
	延べ業務時間	時間		100	120	200	200	200	
	人件費計 (B)	千円		446	535	792	792	792	0
	(A) + (B)	千円		15,030	8,653	7,569	4,699	4,292	2,000
活動指標		ア		10.0	15.0	10.0	10.0	10.0	
		イ							
		ウ							
対象指標		ア	t	4.5	10.8	15.0	15.0	15.0	15.0
		イ							
		ウ							
成果指標		ア	t	5.3	12.9	17.9	17.9	17.9	17.9
		イ							
		ウ							
上位成果指標		ア	t/年						
		イ							

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	H18年2月に策定した南アルプス市地域新エネルギービジョンにおいてバイオマスの利用がうたわれた。
	か?
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べどう変化しているか?また、今後の予測は?	CO2削減等、市民の環境保全に対する意識は高まっている。また、太陽光や小水力、バイオマスなど、新エネルギーの開発、利用の推進が求められている。
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会)等からどんな意見・要望が寄せられているか?	議会からは、先進的な取り組みであるので、効果を明らかにするよう求められている。 農家からは剪定枝の収集方法を種々研究するなど、長期的な取り組みが必要との声がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は?	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしている <input type="checkbox"/> 取り組みしていない
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	【内容】 取組み当初は、重油に代わる燃料として、果樹の剪定枝を原料とした木質ペレットにより温室トマトの栽培を行うという実験が主体であったが、生産物に付加価値を付ける試みを行った。
H 22年度に実施した改革改善の内容	【理由】 環境省基準の認証ラベルを受けた「カーボン・オフセットトマト」として首都圏を中心にテスト販売を行った。付加価値のついたブランド農作物の確立と地域農業の発展に結びつくのではないかと期待される。

事務事業名	バイオマス資源利用促進事業	所属部	総合政策部	所属課	地球温暖化対策室
2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)					
目的妥当性評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか?意図が上位目的に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) <input type="checkbox"/> 結びついている 【理由】 総合計画後期基本計画において、自然エネルギーの導入促進は施策の重点事業とされており、政策体系との整合性は取れています。	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		
目的妥当性評価	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか? 民間やNPOに委ねることは可能か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当である 【理由】 現在は実証実験の段階であり、原料の調達方法、燃料費の削減効果、生産物の品質確認等を行っており、その結果によっては将来的に民間に委ねることは可能である。	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		
目的妥当性評価	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か?目的や事業の必要性を見直す余地はあるか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適切である 【理由】 バイオマス活用策の検証であり、地域の資源を地域で活用するための実験であるので、今しばらく継続する必要がある。	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		
有効性評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか?できない場合は何が原因でできないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 【理由】 原料となる剪定枝の収集方法、ペレットの市内での製造、トマト以外の作物への実験など、成果の向上を図る部分は多くあり、種々検討が必要。	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		
有効性評価	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか?類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか?	<input type="checkbox"/> 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入) <input type="checkbox"/> 統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない 【理由と具体案】 【理由】	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		
有効性評価	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか?また成果から考えて、休止・廃止することはできるか?	<input type="checkbox"/> 影響なし <input type="checkbox"/> 影響あり 【理由と影響の内容】 本格的な実証実験をはじめて2年が経過したが、地域のエネルギーを活用した循環型社会を目指した事業であり、バイオマстаクン構想の取組みに支障が出る。	<input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input type="checkbox"/> 休止・廃止できない 【理由】 データ収集は段階的に行っているので、現時点で事業廃止すると全体の効果測定に支障がある。		
効率性評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない 【理由・具体案】 現在は検証実験の入口であり、初期投資をする部分が多分にあるが、軌道にのれば事業費の削減は可能である。	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		
効率性評価	人件費の削減余地 成果を下げず人件費を削減できないか?(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか?)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない 【理由・具体案】 事業費の削減余地と同じ	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		
公平性評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?受益者負担を見直す必要はないか?公平公正か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 公平・公正である 【理由】 温暖化対策に資する事業であり公平公正である。	<input type="checkbox"/> 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映		

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	平成24年までの事業として計画されたが、バイオマス資源の利用促進に向けた実証実験を行う事業であり、循環型社会・低炭素社会づくりを目指すものであることから、長期的な取組みが必要と考える。
有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)…複数選択可	(3) 改革・改善による方向性										
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性、の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性、の結果) <input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性、の結果)	<input type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性の結果) <input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性の結果) <input type="checkbox"/> 成果向上(有効性の結果) <input type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切) <input type="checkbox"/> コスト削減(効率性の結果)										
(2) 改革改善案について 事業実施期間の延長 トマト栽培以外の他のハウス作物への普及促進の検討 ペレットが有効なエネルギーとして理解されるような啓発	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">成 果 水 準</td> <td colspan="3">コスト水準</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table> 廃止・休止の場合は記入不要	成 果 水 準	コスト水準			削減	維持	増加	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
成 果 水 準	コスト水準										
	削減		維持	増加							
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 府内の理解と予算対策 農家の理解 ペレットストーブの導入	(5) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果										